

地域の会勉強会企画書

平成 19 年 4 月 4 日

1. 問題意識

- 運営委員会での指摘
 - ① マニュアルが増えていくことが、弊害になっているという話も聞いているので、大きな事業に対して、地元がどう関わるべきか。地方行政の役割は本来どうあるべきか等の話も聞きたい。
 - ② 本来、締めることを望んでいるわけではないし、拘束すれば安全だとは思っていない。住民としてどうあるべきかということもヒントでもらえるような勉強ができればと思っている。
- 運営委員会での議論
 - ① 今般のデータ改ざん事件で論点となっているのは企業体質の問題。
 - ② 企業内の業務管理といった個別企業の経営学的なものから、地域のガバナンスといった社会学的な論点を含む。
 - ③ 組織の在り方の科学的なアプローチの1つに組織の経済学がある。
 - ④ 人間をどうとらえるのか、といったところから始めて、勉強会に参加する個々人の仕事・生活にも関連するような話として聞ければ良い。

2. 目的

- 社会的な問題となっている不祥事の隠ぺい体質など企業体質に関する問題について考える際に用いることのできるフレームワークを提供する。
- その際に、業務品質の確保（品質保証）のためのシステムの在り方やそれを確実にするための地元の関与の在り方について考えるヒントを示す。

3. 内容

- 今起こっている問題：「機会があれば相手をだましても自己利害を追求」（モラルハザード：道徳欠如）
- 人間をどうとらえるか：限定合理的人間像
- 組織をどうとらえるか：限定合理的な人間の集合体＝活動ルール→制度を考える
- 不正を押さえる仕組みの構築：ガバナンス
- 外部性とその内部化：市場の失敗、行政の関与、コーポレート・ガバナンス
- 産業構造と企業統治：地域独占の電気事業者、特に原子力発電所：ストックホルダー（株主）のための会社ではなくステークホルダー（利害関係者）と共生できる会社として
- 品質保証とコーポレート・ガバナンス
- ステークホルダ（利害関係者）としての地域住民の企業への関与の方策

4. 講師

- 慶応大学商学部大学院商学研究科 菊澤研宗教授（商学博士）
 - ① 専門：組織の経済学、比較経営論、比較コーポレート・ガバナンス論
 - ② 職歴：昭和63年 防衛大学校社会科学教室講師
平成 3年 防衛大学校社会科学教室助教授
平成 5年 ニューヨーク大学スターン経営大学院
平成11年 防衛大学校社会科学教室教授
同校 安全保障研究科教授（比較組織論）
平成14年 中央大学大学院国際会計研究科教授
平成17年 現職
 - ③ 主な著書：『組織の不条理』ダイヤモンド社 2000年。
『比較コーポレート・ガバナンス論』有斐閣 2004年
『業界分析 組織の経済学』中央経済社 2006年
『組織の経済学入門』有斐閣 2006年
 - ④ その他：ホームページ (<http://homepage3.nifty.com/kikuzawa/index.htm>)

5. 時期

- 6月定例会（6月6日（水））… 予定

以 上